

ボールの特性レポート

BALL REPORT



ボール名 イオン・インフィニット	投球者 徳江 和則	センター 平和島スターボウル
RG 2.500	△RG 0.049	●ピン ★PAP ✕CG ■バランスホール

テストボール：イオン・インフィニット

フレアーの幅 インチ

PAPからピンとの距離 **4-1/2** インチ

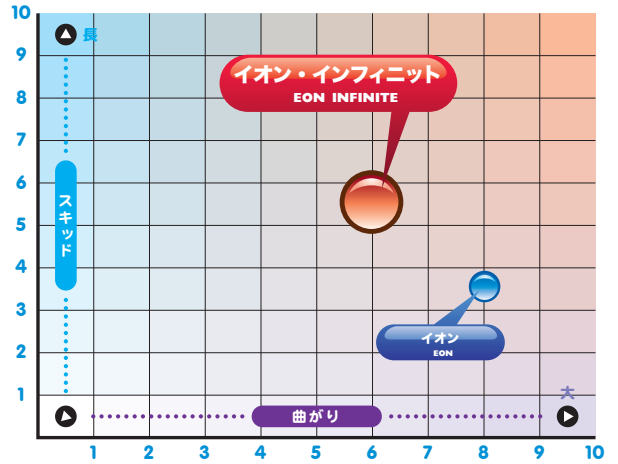
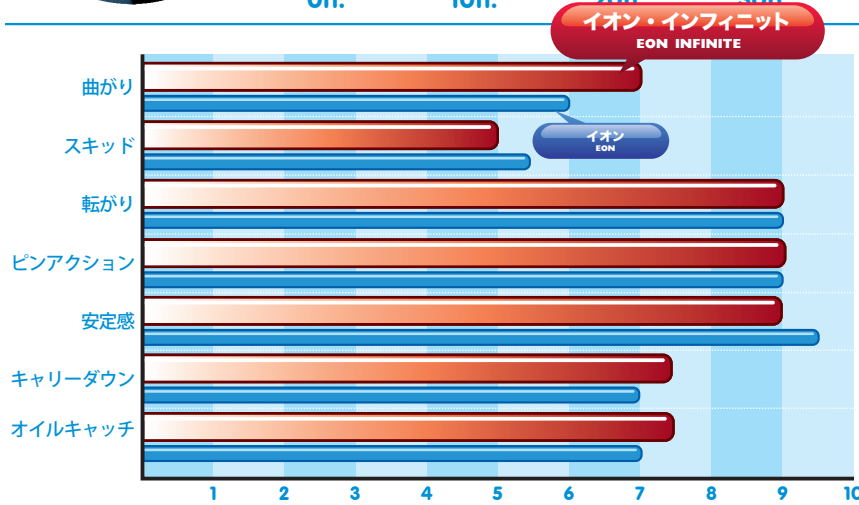
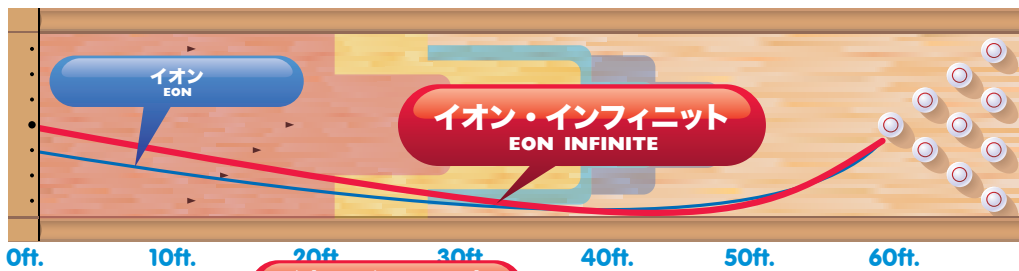
表面加工
 箱出し状態
 加工
 ペーパー
 ポリッシュ
 研磨剤

比較対照ボール：イオン

フレアーの幅 インチ

PAPからピンとの距離 **4-1/2** インチ

表面加工
 箱出し状態
 加工
 ペーパー
 ポリッシュ
 研磨剤



レーンコンディション: Light Oil, Light to Medium, Medium Oil, Medium to Heavy, Heavy Oil

バックエンドリアクション: Smooth, Smooth to Arc, Arc, Arc to Sharp, Sharp Angle

レンジス: Early Roll, Early to Med, Med-Lane, Med to Late, Late Roll

ボールの評価

前回のEONはS82 RX Pearlカバーストックを採用していましたが、思っている以上にオイルに対しての強さではなく、曲がりに転化できないボウラーが多かったようです。先般900Globalの開発責任者とミーティングの機会がありましたが、日本のオイルパターンと環境は強いカバーだと曲がりが失速傾向がでるため、あまり強いカバーではない方が曲がる実感が出ると言っていました。「すぐに日本向けのボールを作成する」と言い残し帰国しましたが、その時の答えが今月発売のEON InfiniteとSpace Time Continuumです。EON Infiniteは人気のあるBadgerと同じベース配合の素材を使い、樹脂の分子構造をよりオイリーなパターンで使用できる”S71 Re-Loaded Hybrid”カバーストックを新たに開発し採用させています。

比較投球はS82のEONと行いましたが、表面加工の差だけではなく、S71カバーストックでもこれだけオイルに対して強くなるのかというのが第一印象で、900Global開発担当者が弱めのカバーでもしっかりと曲がりが出せるという答えが実際の投球で感じられたのは好印象で、ここまでイメージが変わると、同じコア設定でも全くの別物というイメージさえしてしまうほどOloid Symmetricコアの印象まで変えてしまいました。カバーは強めに仕上がっていますが、曲がりは先で大きく動く設定のため、少し大きく幅を取るラインが向きの変り方からピンヒット、ピンキャリアまで総合的なイメージが合いそうです。Oloid効果のコアの為でしょうか、バックエンドで急激に向きが変わるようなリアクションが随時に見られ、ピンヒットの強さを感じられるのと同時に、曲がりの強さと共に入射角度の調整をラインで合わせるのが面白さを感じるボールでもあり、見方を変えればオイルアジャストの新たな選択肢を得られるボールという位置付けでもぜひ投げて頂きたいボールの一つだと思います。

特記事項

ミッドレーンから強く動かそうとするコアの特徴を生かしてアジャストするとき、ものすごく使いやすく、容易に入射角までとれるイメージがあります。